



sendaiメディアテークは開館10年を迎えます。

sendaiメディアテーク

〒980-0821 仙台市青葉区春日町 2-1

tel : 022-713-4483 fax: 022-713-4482

www.smt.jp

office@smt.city.sendai.jp

sendaiメディアテークは開館10年を迎えます。

10th anniversary sendai mediatheque

プレスリリース vol.1 2010年8月

1

sendaiメディアテーク sendai mediatheque

アートギャラリー、図書館、映像メディアセンター、目や耳の不自由な方への情報提供という4つの機能を融合した複合文化施設。

美術や映像文化の活動拠点であると同時に、すべての人々がさまざまなメディアを通じて自由に情報のやりとりを行い、使いこなせるよう、お手伝いしています。

sendaiメディアテーク開館10周年

2001年に開館したsendaiメディアテークは、今年度開館10周年を迎えます。

これまでの10年を振り返りつつ、次の10年の可能性についてみなさんと一緒に考えるさまざまな事業を行います。



せんだいメディアテークは開館10年を迎えます。

せんだいメディアテーク

〒980-0821 仙台市青葉区春日町 2-1

tel : 022-713-4483 fax: 022-713-4482

www.smt.jp

office@smt.city.sendai.jp

せんだいメディアテークは開館 10 年を迎えます。

今年度、せんだいメディアテークは開館 10 周年を迎えます。2001 年 1 月の開館以来、この場所には毎日 3,000 人以上の方々が訪れ、定禅寺通を行き交う人の流れも大きく変わったと言われます。

せんだいメディアテークは、その計画段階から、図書館、市民ギャラリー、映像ライブラリー、目や耳が不自由な方のための情報提供の 4 つの役割をあわせ、つないでいくことで「メディアテーク」という、情報社会に対応した生涯学習のための新しい場を生み出すことを目指してきました。また、この場で活動するみなさんの使いかたや求めていることに応じて、そのありかたを変えていくことのできる場であろうともしてきました。そのようにしてさまざまな新しい活動に取り組んできたこの 10 年間ですが、一方でその間、情報技術の進歩は、私たちをとりまく社会のありようや人々の関係性も大きく変えてきました。これからのメディアテークは、市民の放送局や出版局といった、地域のための情報発信拠点としての役割を具体的に示し、20 年、30 年経っても、ここを利用するみなさんが新しい可能性に出会える場であり続けなければならないと考えています。

そこで、開館 10 周年を迎える今年度、これまでの 10 年をふり振り返りつつ、次の 10 年に私たちのコミュニケーションをもう一度私たちの手にとりもどすため、私たちひとりひとはもちろん、さまざまなレベルのコミュニティやメディアテークを含む機関それぞれが何をすべきか、多くの方々とともに考えていくことができれば幸いです。

開館 10 周年事業について

<http://www.smt.jp/anniversary/10th/>



せんだいメディアテーク外観



建物を縦に貫くチューブが印象的な 1 階



せんだいメディアテークは開館10年を迎えます。

せんだいメディアテーク

〒980-0821 仙台市青葉区春日町 2-1

tel : 022-713-4483 fax: 022-713-4482

www.smt.jp

office@smt.city.sendai.jp

せんだいメディアテーク開館10周年事業

「いま、バリアとはなにか」 “How Barrier is”

情報技術の進展によって、私たちは時間差のない通信手段を獲得する一方、その技術に身体を適応させられています。合理主義的に進められるコミュニケーションの中で、私たちは、内省的な深い考察が生み出す時間的な間や表現上の質感を発揮できなくなっているのではないのでしょうか。そして、平滑で無機質に整形された情報は、グローバル化された消費社会の価値観とともに、個人や文化の固有性すら消失させるかのような振る舞いをみせています。現に身体の差異や存在性は、情報技術とは関係なくあるにもかかわらず、それがもたらした世界観では、不都合なバリアは解消されてしまったかのようです。2000年以後のこのような状況の中で、10周年を迎えるせんだいメディアテークでは、情報化とグローバル化の中におけるさまざまなバリア（身体、言語、性差、民族、空間など）をめぐるリアリティを、次世代を切り開くためのアートとして表現していきます。

http://www.smt.jp/anniversary/10th/how_barrier_is/

主催 仙台市市民文化事業団

共催 仙台市教育委員会

助成 芸術文化振興基金、財団法人地域創造、花王芸術・科学財団

企画協力 桂英史（東京藝術大学大学院映像研究科教授）

会期 2010年10月－12月

会場 せんだいメディアテーク



せんだいメディアテークは開館10年を迎えます。

せんだいメディアテーク

〒980-0821 仙台市青葉区春日町 2-1

tel : 022-713-4483 fax: 022-713-4482

www.smt.jp

office@smt.city.sendai.jp

◎6 階ギャラリーの展覧会

ー消費社会と均質化を乗り越えるアートの夢ー

10周年事業の中核として、美術作家の小山田徹と藤井光が1000㎡以上ある空間全体を使ったダイナミックなインスタレーションを発表します。

小山田徹は、世界的に高く評価されているパフォーマンスグループ「ダムタイプ」での活動の後、バザールやカフェなどコミュニティのための共有空間の設計・開発を先駆的に行っています。藤井光は、映像メディアを用いながら、資本主義社会の歪みなど現代社会の問題点を深く切り取る表現活動を行っています。この展覧会では、両者が現在におけるバリアについての考察をもとに、仙台でのフィールドワークによって集めた大量の日常生活品と、現代生活における生への欲望を記録した映像の断片によって、私たちの社会の鏡像的空間を作り出します。

会期 2010年10月23日(土)ー12月26日(日)

会場 せんだいメディアテーク 6階ギャラリー4200

観覧料 100円



小山田徹 浮遊博物館 2009年



藤井光 chapter1 2005年



せんだいメディアテークは開館10年を迎えます。

せんだいメディアテーク

〒980-0821 仙台市青葉区春日町 2-1

tel : 022-713-4483 fax: 022-713-4482

www.smt.jp

office@smt.city.sendai.jp

◎空きスペースを使った作品展示

ーバリアとしてのアート、アートが溶かすバリア、アートが活かす空間ー

メディアテークの館内は目的別に壁面で区切られた空間ではなく、公共空間として様々な目的を持った人が行き来し、情報が交差する場所です。そして新たな出会いが、次の発見と学習につながることを期待されています。このようなメディアテークの空間をより豊かに活性化するために、ギャラリーに止まらず、館内のいろいろな場所にアートの展示を行い、人や芸術への出会いと発見の交差点を増やしていきます。

1. 南のガラス面（ダブルスキン）を使った作品展示：北川貴好

透過するメディアテークの建物を梱包するように、南のガラス面に紙を張り巡らせて、巨大な作品に変貌させます。

会期 2010年10月中旬から12月26日（日）

会場 せんだいメディアテーク2階から7階の南ガラス面

観覧料 無料



北川貴好 Twilight Zone 眠り - 都市 2007年 北川貴好 吉島庭園プロジェクト 2007年

2. 図書館を使ったプロジェクト：港千尋

書物と読者の間を取り持つ記憶のメディアであり、書物の中に差し入れられるイメージでもあるモノ「栞」を図書館の本のなかに渡り歩かせるプロジェクトです。電子書籍などが普及していく中で、読書の身体性や書物の展示空間でもある図書館について考えます。

会期 2010年10月中旬から12月26日（日）

会場 せんだいメディアテーク3階 市民図書館

観覧料 無料



3. 5番チューブとその周辺をつかった作品展示

5番チューブ再開発計画 vol.6 Depth of Field : 石橋素+真鍋大度

身の回りの素朴な素材や現象に着目し、それらをコンピュータープログラミングや制御技術を駆使して、新たな体験を生む装置として再構成します。新作「Depth of Field」では、市販のエアガンを使う手法で鑑賞者の像を描き出します。

会期 2010年9月18日(土)から12月26日(日)

会場 せんだいメディアテーク 5番チューブ 1階部分、1階エスカレーター踊り場

観覧料 無料

*文化庁メディア芸術祭巡回企画展

◎アートプロジェクトー既知の世界から未知の世界への跳躍ー

アーティストと一緒に表現活動を行い、体験することでアートへの理解を深めていくプログラムです。コンピューターを使った音楽表現で世界的にも評価の高いフォルマント兄弟(三輪真弘と佐近田展康によるユニット)と、視覚にたよらない全盲の美術作家光島貴之が、私たちの社会を取り巻く課題をプロジェクトとして取り上げ、参加者と共にアートとして表現していきます。機械音と人声、伝統の祭りや現代の祭り、視覚芸術と触覚芸術など、異分野の交差によってバリアを照らし、その融和を図っていきます。

1. フォルマント兄弟 せんだいめでいあヲどり制作プロジェクト

フォルマント兄弟と市民の参加者が、仙台の新しい民謡と踊り、そのための衣装やマスコットキャラクターなどを協働で作りだし、発表していくプロジェクトです。

実施期間 5月-12月

<http://www.smt.jp/formant/news/>

<みちのく YOSAKOI 祭りでのヲどり披露>

会期 2010年10月10日(日)

会場 定禅寺通(パレード出場)ほか

観覧料 無料

<記録展示>

会期 2010年11月20日(土)~12月26日(日)

会場 せんだいメディアテーク 7階スタジオ外周部ほか(予定)

観覧料 無料



せんだいメディアテークは開館10年を迎えます。

せんだいメディアテーク

〒980-0821 仙台市青葉区春日町 2-1

tel : 022-713-4483 fax: 022-713-4482

www.smt.jp

office@smt.city.sendai.jp

<フォルマント兄弟ライブ>

会期 2010年12月23日(木・祝)

会場 せんだいメディアテーク 1階オープンスクエア

観覧料 無料(カフェテーブル席は飲食代必要)



5月16日の説明会の様子



フォルマント兄弟

2. 光島貴之 音と触覚で生活世界をなぞる

聴覚や触覚によって世界を認識している「見えない人」の日常を体験するプロジェクトです。音や声による「気配」の展示によって、触覚的世界と視覚的世界のパラレルワールドを構成します。

会期 2010年10月23日(土)~12月26日(日)

会場 せんだいメディアテーク 7階スタジオ外周部

観覧料 無料



作家 光島貴之



せんだいメディアテークは開館10年を迎えます。

せんだいメディアテーク

〒980-0821 仙台市青葉区春日町 2-1

tel : 022-713-4483 fax: 022-713-4482

www.smt.jp

office@smt.city.sendai.jp

せんだいメディアテーク開館10周年事業

連続トークセッション「コミュニケーションの未来へ」

メディアテーク開館からの10年は、情報技術革新の10年でもあり、その変化は私たちを取り巻く環境、経済や都市はもちろん、知や文化のありかたさえも大きく変えようとしています。特に、その変化に伴う「コミュニケーション」を巡る問題は、社会問題のさまざまな側面で指摘されています。身のまわりに溢れかえる情報の中で、私たちが感じるコミュニケーションの困難さ、あるいは過剰さについて、各分野の一線で活躍している方をゲストに迎えてディスカッションを重ね、来るべき10年を見据え、現代におけるコミュニケーションの意味について再考します。

会期 10月、11月、12月 全3回

会場 せんだいメディアテーク 1階オープンスクエア

定員 各回200名

http://www.smt.jp/anniversary/10th/future_communication/



1階オープンスクエア



せんだいメディアテークは開館10年を迎えます。

せんだいメディアテーク

〒980-0821 仙台市青葉区春日町 2-1

tel : 022-713-4483 fax: 022-713-4482

www.smt.jp

office@smt.city.sendai.jp

せんだいメディアテーク開館10周年事業

上映「ことばをこえて——映像の力」“Beyond words – the power of images”

「映像の世紀」と詠われた20世紀の終わりから10年、映画やテレビ、インターネットや携帯されるメディアにいたるまで、さまざまな形で映像は拡大と変化をとげ、時に言葉以上に私たちのコミュニケーションを支えるものになっています。私たちは映像で何を、どのように語り、伝えるのか、その力を探求する作品や、ユニークな映像文法の試み、ゲストとの対話を通じて、今日の映像表現に関わる視点をご紹介します。

会期 第1部 10月23日(土) —10月26日(火)

第2部 11月20日(土) —11月24日(水)

第3部 12月18日(土) —12月23日(木・祝) *予定

会場 せんだいメディアテーク 7階スタジオシアター

定員 各回180名

http://www.smt.jp/anniversary/10th/beyond_words/



上映予定作品『ウィンター・ソルジャー』



7階スタジオシアター



せんだいメディアテークは開館10年を迎えます。

せんだいメディアテーク

〒980-0821 仙台市青葉区春日町 2-1

tel : 022-713-4483 fax: 022-713-4482

www.smt.jp office@smt.city.sendai.jp

- * 上記内容から変更のある場合がございますので予めご了承ください。
詳細に関しては、せんだいメディアテーク企画・活動支援室へお問い合わせください。

せんだいメディアテーク開館10周年事業ホームページ

<http://www.smt.jp/anniversary/10th/>

せんだいメディアテーク 企画・活動支援室

〒980-0821 仙台市青葉区春日町 2-1

tel : 022-713-4483 fax: 022-713-4482

www.smt.jp

office@smt.city.sendai.jp

担当

「いま、バリアとはなにか」 清水建人、清水有、薄井真矢
連続トークセッション「コミュニケーションの未来へ」 林朋子
上映「ことばをこえて——映像の力」 小川直人
広報担当 甲斐賢治、亘理よし子



開館までの歩み 沿革

- 1989年 8月 県芸術協会が大型ギャラリーを中心とした美術館建設の陳情書を提出
- 1992年 1月 定禅寺通交通局跡地に新市民ギャラリーを建設する方針が決定
- 9月 新市民ギャラリーを青葉区図書館（市民図書館）との併設にする方針を決定
- 1993年 3月 新市民ギャラリー建設検討委員会が建設基本構想の提言を市長へ提出
- 1994年 2月 新市民ギャラリー計画につき市民各層からの意見を聞く
- 5月 定禅寺通街づくり協議会から新市民ギャラリーなどの建設について陳情書が出される
- 6月 新市民ギャラリー・青葉区図書館・映像メディアセンター・視聴覚障害者のための情報提供施設の機能を併せ持つ芸術文化施設として設計競技を行うことを決定
- 8月 新市民ギャラリーなどの計画について市民懇談会の開催と市民アイデア募集を実施
- 9月 せんだいメディアテーク設計競技開始
- 1995年 3月 設計競技において伊東豊雄建築設計事務所が最優秀者に決定
- 8月 メディアテーク・プロジェクト検討委員会・第1回
- 10月 メディアテーク利用団体などヒアリングの実施
- 11月 メディアテーク市民懇談会「わいわいトークII」
- 1996年 5月 プロジェクト検討委員会報告書提出
- 11月 メディアテーク利用団体などヒアリングの実施
- 12月 プレイベント act1「デジタル革命のゆくえ」開催。以下、プレイベント計21回開催
- 1997年 10月 建設工事施工業者決定
- 11月 利用者団体等説明会（→12月）
- 12月 建設工事着工
- 1999年 4月 仙台ひと・まち交流財団にメディアテーク準備室設置
- 5月 準備室通信第1号発行。以下、第19号まで発行
- 11月 東京デザインセンター・建築セミナー「メディアテークがめざすもの」開催
- 2000年 3月 せんだいメディアテーク条例制定
- 8月 建築竣工・施設引き渡し
- 9月 仙台市民ギャラリー・仙台市視聴覚教材センター・仙台市民図書館閉館
- 12月 仙台市民図書館移転
- 2001年 1月 せんだいメディアテーク・仙台市民図書館開館
- 1月 開館記念イベント「メッセージ/ことばの扉をひらく」開催
- 3月
- 11月 2001年度グッドデザイン賞 グッドデザイン大賞受賞
○せんだいアートアニュアル2001開催（～2005年まで開催）



せんだいメディアテークは開館10年を迎えます。

せんだいメディアテーク

〒980-0821 仙台市青葉区春日町 2-1

tel : 022-713-3171 fax: 022-713-4482

www.smt.jp

office@smt.city.sendai.jp

-
- 第 23 回びあフィルムフェスティバル開催（～継続）
 - ショートピース！仙台短篇映画祭 2001 開催（～継続）
 - 2002 年
 - smt オープンカフェ開催（～継続）
 - 音声解説・日本語字幕・託児つき映画上映開催（～継続）
 - 2003 年
 - 卒業設計日本一決定戦 2003 開催（～継続）
 - 2004 年 4 月
 - 仙台ひと・まち交流財団を指定管理者として指定
 - トークセッション「共有と連携のデザイン」開催
 - 2005 年
 - 仙台芸術遊泳 2005 開催（～隔年で継続）
 - 2006 年
 - 青葉縁日開催（～継続）
 - 2007 年 4 月
 - 仙台ひと・まち交流財団から業務移管された仙台市市民文化事業団を指定管理者として指定（指定管理期間：平成 19（2007）～平成 23（2011）年度）
 - 伊東豊雄 建築 | 新しいリアル開催
 - 2008 年
 - としょかん・メディアテークフェスティバル開催（～継続）
 - 2008 年 3 月
 - 館内機能の見直しによるフロアレイアウトの一部を変更
 - 5 番チューブ再開発計画開催（～継続）
 - goban tube cafe 開催（～継続）
 - 2009 年
 - メディアテーク機関誌「ミルフィユ」刊行
 - 2010 年
 - 開館 10 周年事業開催
 - 2011 年 1 月
 - せんだいメディアテーク開館 10 周年



理念・サービス

せんだいメディアテークは、美術や映像文化の活動拠点であると同時に、すべての人々がさまざまなメディアを通じて自由に情報のやりとりを行い、使いこなせるようにお手伝いする公共施設です。そのために次のような理念に基づいたサービスとプログラムを用意しています。

理念

最先端の知と文化を提供(サービス)

利用者の需要にフレキシブルに対応します。

端末(ターミナル)ではなく節点(ノード)へ

ネットワークの利点を最大限に活用します。

あらゆる障壁(バリア)からの自由

健常者と障害者、利用者と運営者、言語や文化などの障壁を乗り越えます。

サービス

ギャラリーやシアターなど、表現の空間の提供

美術作品・映像作品の発表や鑑賞

スタジオやワークショップなど、活動の空間の提供

- メディアを活用した生涯学習や、文化的な活動
- 情報活用支援、ボランティア支援(目や耳の不自由な方々の情報技術活用、ボランティアの活動支援)などの活動
- 映像・デジタルコンテンツの創造やメディアに関するワークショップ活動

最新の知識や情報の提供

- 仙台市民図書館
- 美術文化・映像文化の調査研究と美術文化ライブラリー・映像音響ライブラリー
- 目や耳の不自由な方のライブラリー
- 視聴覚教材のライブラリー

だれもが情報を収集し、蓄積し、編集し、発信のできる環境の提供



せんだいメディアテークは開館10年を迎えます。

せんだいメディアテーク

〒980-0821 仙台市青葉区春日町 2-1

tel : 022-713-3171 fax: 022-713-4482

www.smt.jp

office@smt.city.sendai.jp

プログラム

- 美術・映像・メディアに関する展覧会や上映会、ワークショップ
- 障害のある方を含むあらゆる人がメディアを自由に活用できるようにするための教育普及やボランティア活動の支援
- 多くの方と連携して進める情報収集とデジタルアーカイブ化
- 図書館やさまざまな外部機関と連携する事業の開発



施設概要

- 規模** 地下2階、地上7階＋屋上階
敷地面積 3,948.72 m² 建築面積 2,933.12 m² 延床面積 21,682.15 m²
- 構造** 鉄骨造、一部鉄筋コンクリート造
- 工期** 1997年12月17日－2000年8月10日
- 建設費** 約130億円
- 設計** 株式会社伊東豊雄建築設計事務所
- 開館** 2001年1月26日
- 休館日** 年末年始（12月29日～1月3日）、保守点検日 毎月第4木曜日

主な施設内容

- 7階 スタジオ、スタジオシアター、美術文化ライブラリー、会議室
受付相談カウンター
- 6階 ギャラリー4200
- 5階 ギャラリー3300
- 3階・4階 仙台市市民図書館
- 2階 映像音響ライブラリー、目や耳の不自由な方の相談カウンター、
新着新聞・雑誌、児童書、グループ閲覧室、会議室、託児室
- 1階 オープンスクエア、カフェ、ショップ、案内カウンター
- 地下1階 駐車場、文庫書庫
- 地下2階 閉架書庫、収蔵庫、機械室
- 運営費** 指定管理料及び補助金等 計606,409,000円（平成22年度予算）※除財団負担

組織 ※仙台市市民図書館は市直営

所管 仙台市教育委員会生涯学習部生涯学習課

指定管理者 財団法人仙台市市民文化事業団

職員構成 館長（副理事長兼務）－副館長－管理係長－管理係（9名）
－企画・活動支援室長－企画・活動支援室（11名）
－情報資料係長－情報資料係（12名）

指定管理期間 2007年4月1日から2012年3月31日

仙台市市民文化事業団について

財団法人仙台市市民文化事業団は、1986年10月に仙台市によって設立された財団法人で、豊かな魅力ある仙台の市民文化創造に寄与することを目的に、芸術文化の振興に資する事業、郷土の歴史文化に関する事業、生涯学習を支援する事業を行っています。